【第17回京都大会予稿】

新派俳優・佐藤歳三と佐藤一座による『喜劇盲唖院』

～盲人五代五兵衛の私立大阪盲唖院創設運動から～

新　谷　嘉　浩
近畿聾史研究グループ

あらまし：盲人五代五兵衛による私立大阪盲唖院創設にあたり、新派俳優の佐藤歳三が私立盲唖院創設に賛同し、佐藤一座が慈善演劇として『喜劇盲唖院』を演じた事を様々な資料から明らかにする。

1．はじめに

明治33（1900）年、私財をなげうって私立大阪盲唖院を創設した盲人五代五兵衛（以下、五代と略）について、彼が私立大阪盲唖院創設を決意してから創設までの創設運動の経過については『五代五兵衛』[1] に掲載されている。しかし『五代五兵衛』は創設以来30年経過した時に編集をはじめたが、重要資料がほとんど四散してしまい、残った資料で編纂したという [2]。

そこで筆者は五代の創設運動を新聞記事や雑誌等の調査で洗い直したところ、新たな史実がいくつか見られた。例えば、元軍医の山田俊郷が明治32（1899）年に大阪盲唖学校を創設する寸前に私立大阪盲唖院の計画を知り、盲唖学校設備などの一切を五代に譲った事 [3]、大阪南区三津寺町針医の綳田（あかた）豊次郎が地方を巡り至るところで盲人を集め、無償にて訓盲字教授をなしている事 [4]、自由民権運動に関わった新演劇の佐藤歳三とその一座が五代の私立大阪盲唖院創設に賛同し『喜劇盲唖院』をタイトルに慈善演劇を行った事などがあげられる。

本稿は、新演劇の佐藤歳三とその一座が、五代による私立大阪盲唖院創設に賛同し慈善演劇として『喜劇盲唖院』を演じた事を様々な資料から明らかにすることを目的とする。

2．五代五兵衛による私立大阪盲唖院創設運動

五代の私立大阪盲唖院創設運動の経過について『五代五兵衛』に依拠する。同書によると、明治32（1899）年、五代は古川太四郎 [5] の講演を聞くに及んで、盲唖学校創立の決意を固めたという。六代目の音吉と同伴で、京都盲唖院を参観しいくばくかの寄附金をした。大阪府市当局に対して、盲唖学校の実現を熱心に運動したが 成果を見るに至らなかった。

明治33（1900）年 2月11日、南区大宝寺町中町の真宗大谷派誓得寺内に盲唖学校創立事務所が置かれ、3月19日大阪府から認可を得て、「私立大阪盲唖院 」という名称のもとに創設した 。

同年５月22日、本町四丁目の本願寺の末寺浄照坊で京都盲唖院長の鳥居嘉三郎を招聘し盲唖教育講演会を開き、世の人

士に呼びかけた。同年５月25日に創立事務所を北御堂の南向いにある真宗本派の浄久寺に移転し、７月10日院長に古川太四郎を招聘した。そして、同年９月13日から浄久寺の 本堂を仮校舎として古河の授業で開校した。しかしながら『五代五兵衛』には佐藤歳三とその一座が慈善演劇『喜劇盲唖院』を催したことは一行も書かれていない。

３．佐藤歳三と佐藤一座

１）新派俳優・佐藤歳三の人物像

まず、演劇『喜劇盲唖院』を催した新派俳優の佐藤歳三について様々な資料から紹介したい。資料[(6)(7)]によると、佐藤歳三（さとうとしぞう）は明治２（1869）年鳥取の生れ。父は鳥取藩士。明治24（1891）年赤穂の大国座で新演劇の角藤定憲一座にあって角藤の代役で楠公を勤めたのが初舞台 。明治28年３月伊井蓉峰・水野好美と結び、同年７月伊佐水演劇と称して活躍し、その後は新派一方の雄として各座に出勤。36年６月、高安月郊の史劇「江戸城明渡」を川上音二郎・高田実・福井茂兵衛らと上演、その際歌舞伎派幹部に対し立会演劇を申入れた。しばしば座長としても活躍した。当たり役は「不如帰」の片岡中将、「金色夜叉」の荒尾譲介など。太平洋戦争中に行方不明となり、没年ははっきしない。

佐藤が『喜劇盲唖院』を催した時の背景を少し述べておく。「新派」「新演劇」という名称は、歌舞伎など旧来の演劇を「旧派」として、それに対抗するものとして名付けられた名称。元々は自由党の壮士[(8)]・角藤定憲（すどうさだのり）が中江兆民（なかえちょうみん）の援助によって1888（明治21）年12月３日大阪新町座で 行った「大日本壮士改良演劇会」がはじまり。内容は、国会開設を控えての自由民権運動の政治的思想を広めるためにはじめた芝居で、当時は「壮士芝居」「書生芝居」と呼ばれた。 明治30年前後から新演劇が積極的に文壇に近づき、小説劇や欧米の翻案劇や探偵劇などが行われ、芸風もまた歌舞伎から離脱すべく努められ、はじめて新派は旧派と対立し得て新派劇なる名称もこの時にできた[(9)]。 佐藤も新派劇として活躍したのもこの頃である。

２）『大阪朝日新聞』

佐藤と佐藤一座が『喜劇盲唖院』を催したことを知るきっかけとなったのは『大阪朝日新聞』である。 その記事を四つ紹介する。

「●大阪盲唖院雑聞（中略-新谷）辨天座の仕打今井嘉吉、高木徳兵衛、作者小島竹童、座頭佐藤歳三も其趣旨を賛する余り来月に催す演劇の間に盲唖に関する二三幕の芸題を演じ観者の注意を惹かんとす云ふ」

（『大阪朝日』明治33年３月27日付 ）

「 ●梨園だより　辨天座の佐藤一座は今度盲者五代五平といふが自費を以て大阪に盲唖院を設立するの美挙を賛し弘く世の慈善家の同情を買はんが為め前号に記したる狂言の外に新に「喜劇盲唖院」一幕を加へる事になれり其場割は堀江宗一宅の場、誓願寺門前の場、盲唖仮学校の場、役割は左の如し（以下省略－新谷）」

（『大阪朝日』明治33年４月１日付 ）

「●辨天座の新演劇　佐藤歳三を座長に戴き辨天座を根拠としたる一体今や壮士の気燄揚らず殆ど堕落の極に達せしする衰運を挽回し更に進んで劇界の革新を計るとする大抱負以て開場したる（中略-新谷）中幕は五代某が発起したる盲唖院設立の趣意を紹介する為特に一幕喜劇を演ず、（以下省略-新谷）」

（『大阪朝日』明治33年４月９日付 ）

「●大阪盲唖院雑事（前略-新谷）▲過日辨天座にて盲唖教育に関する一幕を演じたりしが見物中感ずる所ありて直に寄附金を差出せしもありたりと金銭は総て七九銀行に預くを由」

（『大阪朝日』明治33年４月27日付 ）

五代が私立大阪盲唖院を創設するにあたって、自費をもって辨天座[10]の作者小島竹童、俳優佐藤に依頼したところ、快く賛同を得られた。「梨園だより[11]」によれば、明治33（1900）年４月１日[12]、佐藤一座は狂言二幕の間に「喜劇盲唖院」を演じ、「美挙を賛し弘く世の慈善家の同情を買はんが為め」に、「場割は堀江宗一宅の場、誓願寺門前の場、盲唖仮学校の場」があり、佐藤は五代五平、その他に一座一同が演じる役をそれぞ紹介している。

３）『喜劇盲唖院』

「絵入番付」とは芝居などで興行の宣伝や案内のために出され刷り物で、上演月日・演目・出演者・配役・座名などが

絵入小番付『喜劇盲唖院』（大阪城天守閣所蔵）

記されている[13]。

この絵入小番付の場合、明治33年４月１日 午前11時から弁天座で『喜劇盲唖院』を催すことを知らせ、他の２演目[12]に新たに追加されることになった事、そして興行上の目玉の演目として目立たせかった事などが考えられる。 登場人物が『大阪朝日新聞』の「梨園だより」とほぼ同じであるが、絵入番付の上の欄に佐藤が『喜劇盲唖院』を催した趣旨が書かれている。

「今ヤ大阪市ニ五代五兵衛氏ガ設立セラルヽノ計画ニカヽル盲唖院ハ尤モ文明的慈善事業ナルヲ賛助シ速ニ博愛ナルノ士ニ知ラシメ五代氏ノ企望ヲシテ完成セシメンガ為メ其趣意ヲ数万人士ノ観覧アル演劇的喜劇ニ脚色シ社会ニ紹介ナシ不肖歳三ガ平素唱道スル主義ノ幾分ヲ尽シ

併テ新演劇タル者ノ聊カ本分ヲ尽サントス幸ヒニ御同情ヲ乞フ

日本新演劇主幹 佐藤歳三 」

この「絵入小番付」によると、五代が設立する私立大阪盲唖院は文明的慈善事業であり、その趣旨に賛同し、それを知らせる目的で、佐藤はセリフなどを加え脚本にして演劇的喜劇に変えて興行し、演劇の社会事業性を強調していたことがわかる。しかし、この喜劇がどのような内容で演じられたのか。 残念ながら脚本や資料は現在見つかっていない。

４．まとめ

盲人五代五兵衛が私立大阪盲唖院の創設運動を慈善家や一般民衆に知らせる目的で自費を投じて佐藤一座に『喜劇盲唖院』を演じさせたことは、大阪盲唖教育史に新たな史実を追加することになるだろう。

明治８（1875）年京都府宮津市（当時は宮津町）で自由民権運動のメッカであった天橋義塾に唖生が入学し教育を学んだ事[14]、そして同じく新派俳優の川上音二郎が明治25年７月に慈善演劇を催し京都市立盲唖院に十円寄付した事[15]などの事実があり、自由民権運動が盲唖教育の推進にどう影響を及ぼしたのか、今後の課題である。

最後に本稿の執筆にあたって、大阪府立中之島図書館や大阪城天守閣、そして独立行政法人日本芸術文化振興会に資料調査や提供において便宜を図っていただいた。厚く御礼を申し上げる。

５．註

（１）福島彦次郎『五代五兵衛』五代五兵衛頌徳会 1937。

（２）前掲『五代五兵衛』１頁。

（３）新谷嘉浩「山田俊郷と大阪盲唖学校～五代五兵衛の私立大阪盲唖院設計画と関係～」『聾歴史月報』66、近畿聾史研究グループ,2014.9,3-9頁。

（４）『大阪朝日』「瞽者の佳什」明治31年１月５日付。

（５）「古河」の名称があるが、ここでは『五代五兵衛』の「古川」によった。

（６）早稲田大学演劇博物館編『演劇百科大事典(2)』1960,584頁。

（７）児島新平「新派俳優の覇王佐藤歳三氏」『三府及近郊名所名物案内』日本名所案内社,1918,128 -131頁。

（８）壮士（そうし）：日本史上の概念では、1880年代の自由民権運動において活躍した職業的な政治動家のこと。

（９）前掲『演劇百科大事典（3)』277頁。

(10) 辨天座(弁天座：べんてんざ)：大阪の劇場。竹田芝居が前身で明治９年（1876）焼失して再建し、明治11年10月に弁天座と改称した。初世中村鴈治朗、写実殺陣の尾上卯三郎らの歌舞伎、大正にはいっては山崎長之輔の連鎖劇、沢田正二郎の新国劇の温床ともなった。のち映画劇場となったが戦災で焼失。昭和31年そのあとへ文楽座が建てられた。(上掲『演劇百科大事典（5)』165頁。)

(11) 梨園だより（りえんだより）：歌舞伎公演のお知らせの事。（『大阪朝日』明治33年４月１日付）

(12) 国立劇場近代歌舞伎年表編纂室編「（明治33年３月-新谷）四月一日初日」『近代歌舞伎年表　大阪篇（3)』「（明治33年３月-新谷）四月一日初日」1988,481頁。

(13) 上掲『演劇百科大事典（4)』513 - 515頁。

(14) 新谷嘉浩「京の聾史探訪（36）　小室信介と天橋義塾」『京都ろうあニュース』445,2011.7,5面。

（15）新谷嘉浩「京の聾史探訪（35）盲唖院に寄付した川上音二郎」『京都ろうあニュース』444,2011.6,5面。